

地域・産学連携プロジェクト研究  
〔研究紹介〕

## 山形県西川町への地域連携プロジェクト：N-PROJECT

猿渡 学<sup>1)</sup>, 志田 明宏<sup>2)</sup>

### N-PROJECT : Regional Alliances with Nishikawa Town

Manabu SARUWATARI<sup>1)</sup>, Akihiro SHIDA<sup>2)</sup>

#### Abstract

The purpose of this project is to propose to how to publicize the charm of Yamagata Prefecture Nishimurayama Nishikawa-machi. "Shizu Gassan hot spring snow Hatago of Light" is the most popular festival in this town. We have participated in this festival.: Exploring the methodology to reconstruct the charm in this town with the theme of "long-life design".

#### 1 はじめにー『雪旅籠の灯り』にむけてー

このプロジェクトは山形県西川町の諸問題を、「ロングライフデザイン」をキーワードに、新規の商品開発やイベントの提示ではなく、その地域において長い時間の中で培われたモノやコトに焦点を合わせ、永続的にその地域に根ざしていくモノやコトを創造する提案を行うことを目的としている。その一環として『雪旅籠の灯り』を映像などのメディアを使って支援することの可能性、ならびにこれまでの本プロジェクトに足りなかった二点の課題を設定しその解決を模索した。

- (1) 月山ならびにその周辺の四季折々の魅力を映像化し、『雪旅籠の灯り』の雪のスクリーンに展開する方法
- (2) 映像メディア研究室として、これまで各地で行なってきたYouTube<sup>3)</sup>などを用いたネット番組の配信の可能性

以降、それぞれの問題点についての実行計画とその実現について報告をおこない、今後の課題を導くことが本稿の目的である。

---

<sup>1)</sup> ライフデザイン学部経営コミュニケーション学科  
Department of Management and Communication

<sup>2)</sup> 月山志津温泉組合  
Gassan Sizu spring Cooperativ

<sup>3)</sup> 2011年以降、仙台・気仙沼・亘理など、宮城県を中心として映像番組を制作し発信してきた実績。  
Ustream から YouTube にプラットフォームを変更（2018年より）

## 2 ロングライフデザインを目指してー山形西村山郡西川町の現状ー

出羽三山参詣や参勤交代で使用された旧街道「六十里越街道」（庄内地方と内陸をつなぐ出羽の古道）を軸に集落が点在している。東北自動車道・山形自動車道などにより、山形県庄内地方と最上・村山と接続し、仙台からもアクセスは良いが、その途中にある西川町は高速交通網の中では外れた地域となってしまった。

特に豪雪地域となっている西川町山間部は、集落はあるものの観光化するには不便な地域となっている。雪のアクティビティーとしての月山スキー場（夏スキーのメッカ）だけではなく、グリーンシーズンの認知と集客力をアップさせるための提案が必要である。人とモノの往来の多かった歴史の再発見と、それに基づく新たな観光資源の開発（新しいモノやコトではなく、長い時間をかけて培われた風土や文化をデザインしなおす提案）が今後の課題である。「観光」という視点の導入がより必要となっている。

また人口問題<sup>4</sup>・人口構成問題は年々深刻化している。もっともこの問題は西川町特有の問題ではなく、地域の抱える問題として提示されて久しい。

前年度のプロジェクト同様、「ロングライフデザイン」を基軸として、西川町、特に山間部集落の観光再開発の提案を目指した。2000年以降から提唱されているこの考え方と動きは、単なる田舎暮らし提案ではなく、観光ガイドブックとは異なった視点からの地域の魅力の再発見である。『d design travel』<sup>5</sup>では、その地域において長い時間の中で培われたモノやコトに焦点を合わせ、永続的にその地域に根ざしていくものを目指している。

西川町の場合、山間部資源を生かした「地域おこし」をおこなっている。いち早く月山からの名水をフューチャーしたミネラルウォーターの開発や、湧き水を生かした酒類の開発、スイーツ類の開発、地元名産である蕎麦を使った地場料理など、資産の有効活用を積極的に行なっている。

しかし、新規のイベントの企画による集客や新たな商品を名産とする動きが停滞しつつある現状を打破する方法としてさらに新しいモノやコトを求めるのではなく、積み上げられてきた伝統的な文化や風土・風習、その地域らしいモノやコトの更なる発見とデザインが求められている。「ロングライフデザイン」の提唱を西川町に対して改めて提案する時期に来ているのではないかと考えられる。地方の地域が抱える問題の解決方法はただ新しいモノやコトでは不可能な場合が多いからである。

今年度は、一昨年・昨年度と同様にプロモーション素材を提供することがこのプロジェクト<sup>6</sup>の目的である。と同時に、「ロングライフデザイン」の可能性を探った。

## 3 活動の状況ならびに提案事項

N-PROJECT で取り組むべき点は前年度までのアプローチから大きな変更はない。例年

<sup>4</sup> 人口： 5,533人 男性： 2,663人 女性： 2,870人 世帯数： 1,873世帯（平成30年1月現在）

<sup>5</sup> デザイナーのナガオカケンメイ氏が、デザイナーが考える消費の場の追及として、デザインとリサイクルを融合した事業『D&DEPARTMENT PROJECT』。すべての都道府県の魅力をデザインの視点から、現在22都道府県がされている。

<http://www.d-department.com/jp/d-design-travel>

<sup>6</sup> 今後N-PROJECTとする。雪のシーズンの大きなイベントである「雪旅籠の灯り」において記録映像の収集と提案、雪旅籠の灯りにおけるプロモーション映像の配信、イベントのフォローアップが主な活動である。

通り、継続的な調査ならびに町としての改善がなされているのかを確認することとした。以下、三点を振り返る。

1)「観光」：旧街道の街として歴史的要素が多く、これらをクローズアップしたプロジェクトができないか？

(ア) 4月：月山スキー場開き（夏スキーのメッカとしてオープン当日の様子を撮影。春から夏に向かう月山周辺を記録）

(イ) 8月から9月、11月：現地調査と撮影をおこなった。昨年度も指摘したが、町全体の統一デザインの必要性を再認識した。この点については、長崎県雲仙市小浜町の取り組みが参考になるのではないかと。

【提案事項】長崎県雲仙市小浜町は観光地・温泉地として衰退していたが、ショップの看板のデザインの統一化やサイン化計画を進め、かつての賑わいを取り戻している。サインか計画を立案し、実行してみてもどうか？

2)「六次産業」：新たな商品の継続的な開発は進めているが、目新しさが感じられなかった。地場のものを用いるというポリシーを確立し、さらにパッケージデザインなどで「西川町」のブランディング化がされていない。

【提案事項】前項目1と同様

3)「教育」：月山湖でのカヌー競技・トレッキングツアーなどの受け入れは継続している。夏スキーなど、月山でなければできないアクティビティはあるものの、スキーヤーの滞留時間はあまり長くない（前項1（ア）で、来場者へインタビューを行った際に、スキー場からすぐに帰宅の途につくという来場者が圧倒的に多かった）。

【提案事項】月山以外の地域（集落）の特徴を生かした新たなアクティビティを生み出してみてもどうか？

## 4 活動の状況

### 【活動概要】



photo 1 雪旅籠の灯り

『雪旅籠の灯り』は例年2月末週末と3月第1週週末の二期にわたって開催される。今年度は2017年2月24日（金）～2月26日（日）、2017年3月3日（金）～3月5日（日）に開催された。雪旅籠設計・制作は、東北芸術工科大学、跡見学園女子大学、共立女子大学の建築デザイン関係の学科などの学生（約60名）を中心に、制作協力団体として、NPO法人エコプロ、新庄河川安全対策協議会、山形森林管理署、月山マイスターが参加し、2月20日より製作が行われた。N-PROJECTはこれまで準備期間からの撮影を行ってきたが、予算面とスケジュールの関係で第一期の開催期間中の映像のみを収集、関係者へのインタビュー、来場者のインタビューなどを加えた映像制作を行った。また運営ボランティアとして経営コミュニケーション学科の学生（10名）が加わった。第二期の期間、雪旅籠の雪面などに

において編集された映像の投影をおこなった。

【活動報告】（2017年月山志津温泉雪旅籠の灯り報告書より抜粋）

今回は、重機の制作段階から天候には恵まれず、旅籠へのダメージ軽減のために、ブルーシートを被せながら雨の浸透を防いだ（photo 2）。学生が入ってからの制作も、吹雪や雨など日々激しく変わる気象条件だったが、一つの作品を完成させるという意気込みと笑顔に溢れ、制作現場は賑やかだった。開催最終日まで旅籠を維持するために、内部はアーチ状の作りに統一し、外部は補修しやすいようなデザインにした。



photo 2-9 雪旅籠の灯り制作風景



photo 10-12 雪旅籠の灯り補修風景

学生たちを含め、月山志津温泉、西川町関係者による手作りの温かみと、昔の街並みを再現し、当時の風情、歴史や文化を伝える雪旅籠は、時を超えた宿場町として来場者ひとりひとりにイメージを伝えることとなった。開催期間中の天候はあまり良くなかったものの、入場者数、宿泊者数ともに昨年より増加した<sup>7</sup>。ロウソクを灯すイベントのため、来場者が訪れる夕方までにロウソクの入れ替えや補修などを行わなければならない。これは天候に大きく左右されるが、それもまた天然雪を用いたイベントならではの味わいであり、それを伝えるべく撮影を行った。連日の丁寧な補修作業のおかげで、最終日まで安全に旅籠を保てたことも関係していると考ええる。

『雪旅籠の灯り』の映像としての支援（猿渡研究室）、雪のイベント開催中の展示物の修復をおこなった。今年度は上映場所が一番奥にあったため、そこまで足を運ぶ来客者でなければ見ることができなかったため視聴してもらえるかどうか、立ち止まってみてもくれるかが心配されたが、上映しているセクションにおいても独自に雪のモニュメントを設置したため、ひとつの企画として認知された。「月山志津温泉 雪旅籠の灯り実行委員会」に対しては写真を含む映像の提供をおこなった。



photo 13 映像送出風景

## 5 考察

イベントは様々なメディア<sup>8</sup>に取り上げられ、山形県のみならず他県にも認知されている。ナンバーの車両やインバウンドで来場するアジアからの来客も多かった<sup>9</sup>。雪のアクティビティーとしての月山スキー場（夏スキーのメッカ）だけではなく、このイベントで月山志津温泉の良さを知って、グリーンシーズンへとリピートさせる仕掛けが必要であるが、このイベントにはその機能は十分ではない。認知と集客力アップは、このイベントにさらにアレンジを加える必要がある。

地域独特の歴史の再発見・長年培って来た風土を検証し、それに基づく新たな観光資源の開発（ロングライフデザインという視点からの風土や文化をリデザインする提案）が今後の課題である。

### 研究活動助成期間

「東北工業大学平成28年度 地域連携協定先との共同研究」の助成により平成28年7月～平成29年3月まで実施したものである。

<sup>7</sup> 総来場者数…約 5,300 人 宿泊者数…466 人（実行委員会報告）

<sup>8</sup> TV：山形放送「やまがた発！旅の見聞録」、さくらんぼテレビ「昼ドキ！TV やまがたチョイス」ケーブルテレビ山形「いきいき雪国やまがた」、テレビユー山形「どよまん」、台湾・中国・韓国メディアラジオ取材：FM山形「ラジオモンスター」、YBCラジオカー

<sup>9</sup> 脚注8でも指摘したが、台湾や中国のメディアの取材も入っていた